

議会 BCP 検証検討会議 最終報告資料

令和5年（2023年）2月24日

議会 BCP 検証検討会議

1 今年度の目的

- 1 令和3年度議会 BCP 検証検討会議から報告(令和4年3月18日付け最終報告書)されている昨年度の議会機能継続訓練における課題の検証を行い、対応方策を検討すること。
- 2 令和4年度の議会機能継続訓練について検討すること。
- 3 その他

2 推選委員

座長		青山 暁 副議長
委員	自由民主党芦屋市議会議員団	福井 利道 議員
	日本共産党芦屋市議会議員団	ひろせ 久美子 議員
	公明党	田原 俊彦 議員
	あしや しみんのこえ	たかおか 知子 議員
	日本維新の会	浅海 洋一郎 議員

3 会議内容

	日時	内容
第1回	令和4年7月26日	・目的・推選委員の確認 ・会議体の名称について ・協議検討事項について ・今後の予定について
第2回	令和4年8月26日	・視察について ・訓練のテーマについて ・課題の検討について
第3回	令和4年9月12日	・視察について ・課題の検討について ・訓練のテーマについて
第4回	令和4年10月4日	・訓練について ・課題の検討について ・訓練について
視察	令和4年10月21日	・大津市議会における議会BCPについて(大津市議会オンライン視察)
第5回	令和4年11月7日	・訓練について
議会機能 継続訓練	令和4年12月21日	・会議中に災害が発生した場合の全体行動の流れの確認 ・オンラインでのブロック活動の予行演習
	令和5年1月12日	・災害対策会議の設置からブロック活動の流れについて(オンライン実施)

第6回	令和5年1月26日	・課題の検討について ・中間報告(案)について
全体協議会	令和5年2月13日	・中間報告
代表者会議	令和5年2月24日	・最終報告

4 議会機能継続計画(議会BCP)地震風水害編の改正(別紙参照)

以下の改正を行う。

- 25頁 第2編 第1章 第1 1 暫時休憩・安全確保・避難行動
 - (5) 傍聴者を避難誘導
 - ⇒ 所管課に確認の結果、地震を感知した場合の、南階段の自動ロックをロック解除に修正
- 73・75頁 第3編 1 会期直前や会期中に災害が発生した場合に備えて
 - (2) 会期前(招集告示後)
 - ⇒ 地方自治法の一部改正により、災害等の場合の開会の日の変更に関する規定が整備されたことに伴う議会運営の対応検討事項を追加するもの
- 142頁 第5編 資料集
 - 【資料19】消防設備・消火器・AED・簡易担架・防災ラジオ等の配置図
 - ⇒ 簡易担架の配置を南館3階の市議会事務局から南館4階の大会議室へ修正(143頁も同様)

5 議会機能継続計画(議会BCP)感染症対策編の改正(別紙参照)

以下の改正を行う。

- 42・44頁 第3 1 会期直前や会期中に感染症患者が発生した場合に備えて
 - (1) 会期前
 - ⇒ 地方自治法の一部改正により、災害等の場合の開会の日の変更に関する規定が整備されたことに伴う議会運営の対応検討事項を追加するもの

6 議会機能継続訓練での課題

※訓練後総括等、アンケート結果より課題を記載した意見を抽出しまとめています。類似した意見はまとめ、表現を要約している場合があります。

発災直後の会議運営の判断や行動における課題		対応方策
1	地震の場合、会議の長がシェイクアウトを呼びかけることが大事ではないか。	マニュアル P24 1(2)、P109にシェイクアウトの呼びかけの記載あり。

負傷者運搬訓練における課題		対応方策
簡易担架の利用について		
1	簡易担架に頭と足の位置の明記をしておく必要がある	頭の位置を明記済
2	運んでいる人の脚を前にして運ぶ方が安全なのではないか。 また、4人の力を均等にしないと破れてしまうので、持ち上げる時はかけ声で一斉に持ち上げるべき。頭の位置や、頭の向き、力のかけ具合など注意事項をスマートムーバーに記載しておくべき。	使用方法をまとめたものを作成し、簡易担架とあわせて保管する。
簡易担架の使用目的について		
1	当初、議場傍聴席から4階のエレベーターホールまでの移動を想定して導入している。 簡易担架での運搬は10mが限界で、階段も運ぶような想定はしていない。外まで運ぶことを想定するなら別の手段を考え、簡易担架自体は買い替えの必要がある。 この簡易担架を使用する目的をしっかりと決めるべき。 本格的なストレッチャーも、予算が許せば備えて置いても良いかもしれない。	簡易担架は導入当初の想定どおり、危険な場所からの緊急的な一時移動を目的とする。運ぶ人の力を分散させるため、4人以上で運べる簡易担架の導入を検討する。
簡易担架の訓練について		
1	自力で動けない人を簡易担架に乗せるなど、負傷者のケースに合わせての対応訓練も必要ではないか。	今後の訓練において検討する。
2	階段の搬出の訓練が必要、かつ搬出先も想定しておくべき。	階段での使用は想定しないこととする。
3	階段では運んでいる人の頭が高い方に来るようにし、またヘルメットを貸す必要があるのではないか。	
4	状態を確認しておかないと、いざという時に使えないので、定期的に出してみても物品の状態も確認しておく必要がある。	今後の訓練でも定期的に行う。

オンライン会議の課題	対応方策
Zoom での会議について	
<p>1 会場音声については改善が必要。同室で繋ぐ場合、音声がかぶって聞こえたりハウリングしたりするので、喋るとき以外はミュートにするのが基本。会議の冒頭でアナウンスしてほしい。</p>	<p>モニターを用意できる場合は、接続を1台のみとする。会場ではミュートだけでなく音量オフもアナウンスする。</p>
<p>2 今後、オンライン会議（LINE グループ、ZOOM など）を行うときは、特段の事情がないとき「原則〇分前には接続する」「音声チェックを済ませる」などのルールも検討してもよいのではないかと。</p>	<p>オンライン会議の際は、開始5分前までに接続し音声チェックまで完了させる。</p>
LINE での会議について	
<p>1 災害時にはスマホからモバイル通信で入る可能性も高くなる。大人数が常時カメラオンで接続すると通信量がかかり多くなり、各々のスマホに通信制限がかかる可能性がある。災害時に通信制限がかかってしまうとそれ以外の活動に大きな支障をきたすため、冒頭の参加者確認のためにカメラオンにした後はカメラオフでやりとりし、必要な時だけカメラオンにするような運用も検討したほうが良い。</p>	<p>カメラはオンが基本だが、ブロック長の判断で臨機応変に対応する。</p>
<p>2 たとえ顔が見られなくても安否確認でき、指示も出せ、共有できるので声だけでも良い。</p>	
オンライン会議について	
<p>1 デジタル機器に詳しくない方もおられるので、実際に使ってみる機会をなるべく多くした方が良い。</p>	<p>来期以降の訓練内容の検討事項とする。</p>
<p>2 スマホでサイボウズを使用する訓練が必要。</p>	
<p>3 慣れが必要なので、繰り返しの訓練・練習が必要。</p>	
<p>4 ネット環境が使える前提の訓練だが、アナログでの訓練も必要。</p>	
<p>5 次回以降の訓練はブロック長会議も全員遠隔で実施する必要がある。</p>	
<p>6 ドコモは基地局が多数あり、災害にもある程度強いが、後発キャリアを使っている人は復旧が遅い可能性がある。議員それぞれのスマホキャリアが異なるため、全員つながらないのであればアナログ対応が良いが、一人だけ使えないというような状況ならポケット Wi-Fi を用意して対応する、また、事務局で各議員のキャリアを把握しておくなどの対応が必要ではないか。</p>	<p>来期以降の検討事項とする。</p>
<p>7 オンラインについては緊急時に慌ててやってもうまくいかないため、オンラインで代替可能な会議については、平時からオンライン会議を行うようにすることで、事務局も含めてオンライン会議に慣れておく必要がある。</p>	<p>来期以降の検討事項とする。</p>

ブロック活動についての課題		対応方策
1	実際の場合、小さなエリアで様々な事案が起こっていると考えられ、限られた議員の数では地域の状況の把握に偏りが生じることもあると思うので、ブロック内で地域を分割し調査活動する必要があるのではないか。	ブロック内で各避難所の担当者は取り決めがあるが、運用の見直しについて来期以降の検討事項とする。
2	災害時の非常時においては訓練のように悠長ではないと思われます。人数の多い精道や山手は、激甚被害時はブロック長に相当な負担が想像されるので、4ブロック、各5人程度の体制も検討してもいいかもしれません。	
3	マニュアル P54 の四角囲みで記載してあるブロック活動の定義をもう少し明確化したらいいいのではないかな。	
4	今回の訓練でのブロック活動は議員単独行動だったが、実際の災害時には速やかに複数での行動に移ることが求められるので、その訓練も次回以降の課題。	今後の訓練において検討する。

Google フォームにおける課題		対応方策
Google フォームについて		
1	何度でも送信できるが、混乱の元になるので、基本的には一回だけの送信にした方が良い。	同一内容の送信は 1 回とする。
2	タブレットから少し入れにくかった、携帯で簡単に報告できたらいい。	スマホからでもサイボウズ、Google はアクセス可能と周知する。
3	送る側は作成した情報が届いていると思っているのに実際には届いたのかわろかが確認できなかったのが不安。	送信後は、「回答を記録しました」という表示が出るため、送信後の表示画像を入力フォームの最後に付け、この画像が出たら完了しているとわかるよう修正済。
【資料 11】の様式について		
1	「種別」「区分」の選択肢について、該当がない場合があり得るため、その他、特に対応を要しないという項目が欲しい。 ブロックでの活動はフリーハンドで動くというよりは、あなたは A 地点、あなたは B 地点と決められて動き、かつ、なるべく網羅的にチェックして	ブロック活動の内容の見直しを含め、様式の見直しを検討することになる

	いくということを見ると、異常なしの報告もできるようにしておくべき。	ため、来期以降の検討事項とする。
2	報告書をイメージしにくい議員もいるのではないか、いくつか具体例を示すことも大事ではないか。	様式の質問項目の欄に例を記載しておく。
3	時間の入力難しいので選択式(プルダウン)にしてほしい、分は10分単位で良いかと。 入力は24時間表記とわかるように記載するか、午前・午後がわかるようにしておくべき。	Google フォームの形式で時・分をプルダウンで並列表示できないため、入力形式は現状のまま、24時間表記で入力するよう注意書きを挿入済。
データの添付について		
1	画像の共有も、なるべく Google フォームで投稿できた方が情報集約には有効。 Google アカウントを持っているかアンケートし、持っていない人が少数なら取得いただき、データもフォームで送信できるようにしたらどうか。	来期以降の検討事項とする。
2	写真を LINE グループに挙げているが報告書では画像添付なし、としている方がいたので二つがリンクするような書き方の工夫が必要。	
3	状況を伝える上で写真が添付できる方が良いので Google フォームで改善できるのであれば改善し、出来ないなら違う方法も検討しても良い。	
フォームの場所について		
1	リンクを貼っている場所が分からないという声があった。記載場所の取り決めをしておいたほうが良いのではないか。 いざという時にすぐ使えるように、専用アイコンや QR コード、ショートカットを準備すれば便利だと思う。	サイボウズ、ファイル管理の直下にリンクを貼る。 サイボウズからアクセスし、できない人は LINE で URL を送付してもらおうと統一する。

その他の課題		対応方策
1	スマホは諸会議参加含めて常時携帯しておく方が、災害発生時には対応しやすい。会議に持ち込む検討をしてはどうか。	委員会へのスマホの持込みは、審査に資するため使用する場合に限り認められているが、本会議への持込みは認められておらず、来期以降の検討事項とする。
2	激甚被害時は今回のように電波や電力の供給が安定しているとは限らないため、それを前提に、さらにブラッシュアップした議論が展開されることを望む。	今後の訓練において検討する。
3	現在、4人議員が阪神淡路大震災を経験しています。この方々の経験談を引き継ぎたい。	

第6回で出た意見		対応方策
1	芦屋市議会 BCP〈概要版〉の内容も修正があれば、作り替えが必要ではないか。 活用方法も来期に議論し、訓練で活かさないか検討してはどうか。	来期見直し事項の結果を踏まえて再作成するか検討する。